

その先にある悲しみに 気付いてほしい――

タレントとして活躍しているうんば中尾さんは、飲酒運転事故を起こした体験を人に伝え、その危険性を知らせるために講演活動を行っています。飲酒運転が自分や周りの人に与えた影響と、防止策について話を聞きました。

私 は平成17年に飲酒運転で事故を起こしてしまいました。前日は午後10時頃までテレビ番組の打ち合わせを兼ねてお酒を飲みました。タクシーで帰宅して寝た後、午前3時に起きて「もう大丈夫だろう」と思い、食材

を買いに市場へ車で向かいまして。その途中、信号待ちで停車していた車に追突してしまつたのです。実況見分の最中、私からお酒のにおいがした

ため飲酒チェックを受け、測定の結果酒気帯び運転で検挙されました。

事 故後、私はお世話になつていた企業や放送局からの信用、キャリア、収入など多くのものを失いました。家族にもつらい思いをさせてしまいました。家や車にいたずらをされ、精神的に不安定になつた時期もあります。だからこそ今は、一人で

も多くの人に飲酒運転の危険性やその先にある悲しみに気付いてもらおうと講演活動を行っています。

飲 酒運転を減らすには、自分が酔っていることを知りながら運転する人、お酒が抜けたと思ひ込んで運転する人にしっかりと自覚してもらうことが重要です。そのためにも、当事者だけでなく周りの人も一緒に取り組んでいく必要があります。お酒を飲むときには職場に車を置いてみんなでタクシーで帰る、お酒が残っていないか家族に息をチェックしてもらうなどいろいろな取り組みができると思います。

お 酒がなくならない限り飲酒運転を根絶することは難しいかもしれません。しかし、そのせいで人の夢や人生が奪われることは決してあつてはなりません。飲酒運転は家族、職場、友人同士など社会全体の問題として本気で取り組んでいくことが大事です。飲酒運転を減らすために一人一人がルールを守り、飲酒運転をしない、させない、許さない環境を熊本県からつくっていきましょう。

笑顔を守るために

「飲酒運転はしてはいけない」。みんなが知っている当たり前のことです。しかし、アルコールはその当たり前のことも分からなくしてしまうことがあります。想像してみてください。もし自分が飲酒運転事故を起こしてしまつたら……。もし大切な人が飲酒運転事故に巻き込まれたら……。

笑顔を守るための鍵は、自覚と助け合いです。その鍵は私たち熊本県民一人一人が握っています。熊本県から飲酒運転をなくし、大切な人の「笑顔」を守っていきましょう。



Special Interview

うんば中尾さん

◎ Profile うんばば・なかお

昭和40年熊本県生まれ。有限会社赤坂を立ち上げ、イベントの企画・運営を手掛けながら、自らもテレビ番組制作などで培ったノウハウを生かしキャスター、リポーター、イベント司会、講演活動などを行う。

